

クラシキ クリーンフレックス JC-U形 取扱説明書

製品を取付け使用する前に、この取扱説明書を注意深く読んでいただき、十分にご理解の上で正しく施工いただきますようお願い申し上げます。

この取扱説明書は工事終了後保守点検管理者に必ずお渡し下さい。

裏面もご覧下さい

製品の説明

クリーンフレックス JC-U形は、建物、工場等の上水系統配管に、振動伝達の低減を目的として、ご使用頂くゴム製防振継手です。

使用方法

ご使用前の確認事項

- ① ご注文いただいた製品に間違いがないことを、ゴム継手本体部及びユニオンツバ部の刻印による品番表示で確認して下さい。(ゴム部：JC-〇〇、ツバ部：〇〇A)
- ② 製品本体部、シール面部に傷等がないことを確認して下さい。
- ③ 製品本体に、油(潤滑油など)、溶剤、酸、アルカリが付着しないようにして下さい。
- ④ 雰囲気温度40℃以下で使用して下さい。
- ⑤ 現場の最高使用圧力・最高使用温度が各製品の使用範囲内であることを確認の上ご使用下さい。使用範囲外での使用は製品の寿命を著しく短くし流体の漏れなど不具合の原因となります。
- ⑥ 製品の運転時寸法許容値は単独変位の最大値を示します。従って変位が複合する場合は次の式で補正して下さい。(取付時寸法許容値は運転時寸法許容値に含みます。)

$$\frac{\text{伸び(縮み)量}}{\text{許容伸び(縮み)量}} + \frac{\text{偏心量}}{\text{許容偏心量}} + \frac{\text{偏角量}}{\text{許容偏角量}} \leq 1$$
- ⑦ 製品は、締切運転などの誤動作によって破損する恐れがありますので運転時は必ずバルブの開閉をご確認下さい。
- ⑧ 流体を急激に流すようなバルブ操作はしないように十分ご注意ください。
- ⑨ 製品の管内流速は3m/s以下での使用をお勧めします。
- ⑩ 配管ラインの耐圧試験をエアールで行う場合には、継手を外してから行って下さい。

図1

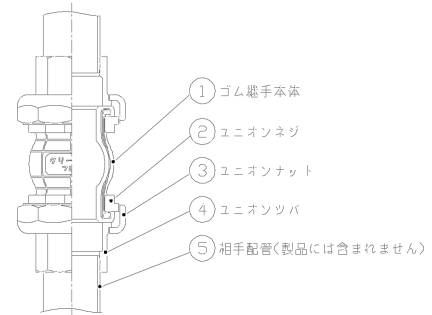
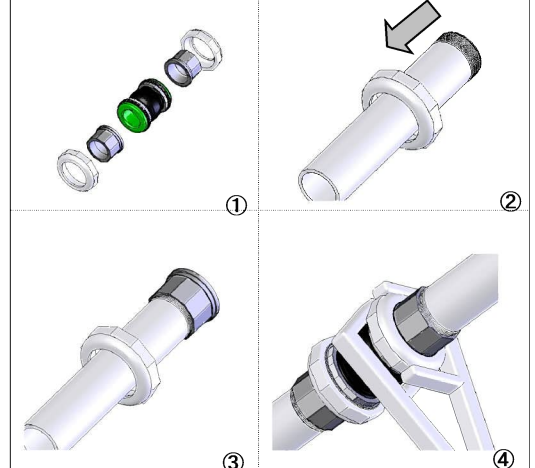


図2



保管上の注意事項

- ① 運搬中・保管中、製品に損傷を与えないよう十分にご注意下さい。また、損傷がある場合は使用しないで下さい。
- ② 長期間保管をする場合、冷暗所に保管し直射日光を避けて下さい。
- ③ 温度40℃以上及び過度の湿度、水分のある場所に長時間放置しないで下さい。
- ④ 製品に火気が当らぬよう十分ご注意ください。
- ⑤ 製品に荷重をかけないようにご注意ください。

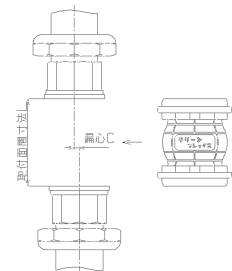
配管施工上の注意点

- ① 配管重量が製品本体にかからないようにサポート等で配管を支持固定して下さい。
- ② 製品本体に溶接による火花、熱がかからないようにして下さい。
- ③ 屋外設置(直射日光、雨水等)には、製品本体にラッキング等カバーを設けて下さい。
- ④ ゴム製継手は内圧の負荷により反力が生じます。製品の性能を十分に発揮させるためには配管をしっかり固定して下さい。
- ⑤ 製品が変位した時、周囲の構造物や機器(特に鋭利な角)が製品に触れないように取り付けて下さい。
- ⑥ 異種金属と接続する際は、絶縁する事をお勧めします。

取付方法及び注意点 (図2参照)

- ① 製品のユニオンナットを緩めてユニオンツバを両側とも取り外して下さい。
- ② 製品を取り付ける配管の両端にユニオンナットを通してからユニオンツバを取り付けて下さい。
- ③ 製品を取り付ける相手配管の取付面間寸法L及び偏心Cが右記の「取付時寸法許容値」内であることを確認して下さい。(表1参照) 許容値を超えている場合は配管を補正して下さい。
- ④ 製品を配管の間に入れ、両側のユニオンナットをユニオンねじに交互にねじり込み、仮締めした後、パイプレンチ等を2本使用して本締めして下さい。
※締付時に製品本体へねじれや引っ張り等の力がかからないようにして下さい。
- ⑤ 製品の取付完了後、試運転を行って下さい。そのとき、圧力は徐々に上げて行って下さい。
- ⑥ 水漏れが発生した場合は、点検して下さい。(点検要領参照)

表1



品番	取付時寸法許容値 .注1	
	取付面間寸法 L(mm)	偏心 C(mm)
JC-20U	90±2.5	±2.5
JC-25U	90±2.5	
JC-32U	90±2.5	
JC-40U	97±2.5	
JC-50U	112±2.5	

注1.取付時寸法許容値とは、図2に示す相手配管へのユニオンツバを取り付けた状態の出来上がり寸法のことです。

耐用年数の推定

ゴム製継手は、ゴムと補強層からなる複合弾性体で、永久的なものではなく寿命のあるものです。製品の寿命は、さまざまな要因によって大きく左右されるため一概に耐用年数何年と言い切ることは不可能です。

推定耐用年数を求める一覧表は、別途ご相談下さい。ただし、製品の耐用年数は、設置状況や変位の負荷状況、稼動時間など種々の要因により大きく変動することは避けられませんのであくまで大方の目安としてご理解下さい。また、製品の寿命を的確に判断され、事故の発生を未然に防止するため、点検を実施されるようお願いいたします。

点検要領（主として継手本体）

点検は、6ヵ月に1回を基本としますが、異常が発見され、なお且つ、交換をしない場合には、点検周期を短くして下さい。

No.	点検項目	方法	原因	対策
①	シール面より水漏れ	目視	(1) ユニオンの緩み (2) シール面ゴム部の破損	増締めを行って下さい。 増締めを行っても水漏れが止まらない場合は、交換して下さい。
②	製品ゴム表面クラック（キレツ）	目視	加圧・減圧及び変位による繰返し疲労	発生初期には、直ちに危険はありませんが、クラック（キレツ）が補強コードまで達した場合は、交換して下さい。
③	局所的な膨らみ	目視 接触	内面破損により、外面ゴムと補強コードの間へ水の侵入	交換して下さい。
④	傷	目視	異物との接触	傷が補強コードまで達している場合は、交換して下さい。 異物を取り除いて下さい。
⑥	錆（ユニオン部）	目視	(1) 流体の漏れによる (2) 使用環境による	軽微な場合は、錆を除去し補修して下さい。 全周にわたり錆びている場合は、交換して下さい。

お願い

当製品は、温度・圧力・変位等の使用条件により、耐用年数が異なります。

耐用年数を過ぎると流体が漏れる等の不具合が発生します。必ず下記項目をお守り下さい。

1. 定期点検

半年に1回以上の定期点検を行い、異常の有無をご確認下さい。（上記点検要領参照）

2. 交換基準

定期点検で下記のような異常が認められた場合は、運転を中止し、交換をお願いします。

- ① 流体が漏れている場合。
- ② ゴム本体に傷がある場合。
- ③ ゴム本体に変形（皺、局所的な凹凸等）が見られる場合。
- ④ ユニオン部が全周にわたり錆びている場合。
- ⑤ 運転時、製品が許容変位を超えている場合。（カタログ参照）

廃棄の際は、産業廃棄物として処理下さい。

予告なく仕様を変更することがありますのであらかじめご了承ください。

07110077C(2021.1)



倉敷化工株式会社 産業機器事業部

<http://www.kuraka.co.jp/sanki/>

〒712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630 TEL(086)465-1715(代)